

私流ゴミリサイクル法

西京区 三原

京都市では、アルミ缶、ポリ容器、びん類などを分別収集してくれます。アルミ缶やびん類は再利用が期待できます。発泡スチロール製のトレイ、牛乳の紙パック、卵のケースは購入先の店舗で引き取ってくれます。牛乳の紙パック製のトイレットペーパーが売り出されていると、つい買ってしまいます。新聞や雑誌、段ボールの箱、衣類は小学校のPTAが事業として集めてくれます。年度末に、収支決算書が配られると、役立って良かったと思います。

台所の生ゴミは、我が家でたい肥化しています。写真で掲載しているように、コンポストを庭の隅に据えて、ぼかし（発酵補助剤）を混ぜて貯めます。時間の経過とともに、生ゴミはたい肥に変わります。

始めたばかりの頃、夏場になると小バエが家の中まで入ってきました。発酵には温度や水分が影響しますが、水切りが不十分だったようです。今は、流しの三角コーナーで水切りした生ゴミを、ざるを入れたポリバケツに移し、再度水切りをします。3日ほどたったら、コンポストに入れます。さらに、落ち葉を拾ってきて混ぜるなどの工夫をすることで、水分の調整がうまくいくようになりました。

コンポストは、最初 1個だけでした。2個目を購入し、ウジがわき始めたら土や落ち葉を入れてかき混ぜ、1個目へ入れることを終了します。2個目を利用している間に、1個目の中で発酵が進みます。たい肥ができあがるまでの約半年間は生ゴミを入れられないので、更にコンポストを2個購入しました。回転がうまくいくようになりました。

生ゴミのほか、垣根のせん定枝や葉、咲き終わった花や枝、育てた野菜の茎や葉、雑草などもコンポストに入れます。この夏、トウモロコシの茎でいっぱいになりました。1週間ほどしてふたを開けてみたら、熱くなっていました。発酵が順調に進んでいたのです。

真っ黒でさらさらのたい肥は、チューリップや水仙の球根を植える時、トマトなどの夏野菜を植える時に、深く掘った土の中に入れます。引っ越してきた時、粘土質の土にスコップの刃が食い込みませんでした。2数年たった今では、ふんわりと柔らかくなり、黒ずんできました。カエルが飛び跳ね、ミミズが顔を出します。きれいな花が咲き、おいしい実がなります。

生ゴミと我が家で育った植物性廃棄物は、すべて土に戻してやる意気込みでいます。時間に余裕ができたなら、近所の奥さんたちに生ゴミのたい肥化を勧めようと思っています。生ゴミを土に戻し、再利用する喜びを分かち合いたいと思います。

